

令和5年度 第1回 岸和田市観光振興計画推進委員会

- 1 日時 令和5年7月19日（水）午前10時～12時
- 2 場所 岸和田市役所新館4階 第2委員会室
- 3 出席者 委員【学識経験者】
石田信博、小川雅司
【公共的団体の代表者】
土井康司、中井秀樹、山本義治、井上實、藤浪勝三
【関係団体の代表者】
寺本信吾、兒嶋一裕、塩見正成、北林弘幹
【市民公募】
加藤一、宮田晴未
【欠席者】
佐野楓
【事務局】
船橋魅力創造部長、井上観光課長、有留担当主幹、増田担当長、
藪内担当員、出口担当員
竹平（ブレインファーム）、新谷（ブレインファーム）、
荒木（ブレインファーム）、藤原（ブレインファーム）
【傍聴者】 1名

1 開 会

- (1) 部長挨拶
(2) 後任委員紹介
(3) 第3次岸和田市観光振興計画策定業務事業者紹介

2 議 事

- (1) 第2期行動計画（延長）の進捗状況について
①第2期行動計画（延長）の進捗状況
②R4年度本市の入込数の推移
(2) 第3次観光振興計画策定について
①次期計画策定検討体制（案）
②スケジュール（案）
③第3次計画策定に向けた方向性の説明・協議
(3) その他

3 閉 会

配布資料

- 本日の次第
- 配席図（資料①）
 - 岸和田市観光振興計画推進委員会 委員名簿（資料②）
 - 岸和田市観光振興計画推進委員会 規則（資料③）
 - 第2期行動計画（延長）進捗状況（資料④）
 - 入込数一覧表（資料⑤）
 - 第3次観光振興計画策定検討・推進体制（案）（資料⑥）
 - 第3次観光振興計画策定関連スケジュール（案）（資料⑦・⑧）
 - （仮称）第3次岸和田市観光振興計画 目次（案）（資料⑨）
 - 各種アンケート調査票（資料⑩）

1 開 会

- (1) 部長挨拶
- (2) 後任委員紹介
- (3) 第3次岸和田市観光振興計画策定業務事業者紹介

2 議 事

- (1) 第2期行動計画（延長）の進捗状況について

①第2期行動計画（延長）の進捗状況

●事務局

「将来ビジョン岸和田」の趣旨説明、第2期行動計画延長の進捗状況（資料④）を報告。各種事業の実施状況を説明。主要施設の観光客入込数（資料⑤）を報告。

②R4年度本市の入込数の推移

●委員（F）

資料⑤について、だんじり祭の入込客数は記載されているが、どんチャカフェスタはどうなっているか。

●事務局

春と秋のどんチャカフェスタの入込客数は取れていない。人流データで取れるものがあれば取っていただけるように努めてまいりたい。

●委員(F)

観光交流センターの入込客数について、令和3年度までのリニューアル前は、レストランに来たお客さんは計測に入っていないということか。

●事務局

入口センサーで計測していたため、レストラン利用者も含まれている。令和4年度以降は指定管理者が変わって、担当スタッフが人数を計測している。

- (2) 第3次観光振興計画策定について

①次期計画策定検討体制（案）

●事務局

策定体制についての説明(資料⑥)。

●委員長

学識経験者もどちらかのWGに入るのが特徴。市民公募委員もどちらに入っていたか後ほど相談していただきたい。

●委員（I）

先ほど説明があった第2期行動計画と、これから議論する第3次観光振興計画の関係性について、説明願いたい。

●事務局

今回策定するのは、第3次観光振興計画で、前段に第1次、第2次がある。現行の第2次観光振興計画は、社会状況の変化を鑑み、7年間で第1期から第3期までの行動計画を定めている。説明は、第2次観光振興計画における第2期の延長についてである。次期振興計画は、将来ビジョンをもとに6年という期間を定め、観光の施策方針となるものを定めたい。

②スケジュール（案）

●事務局

第3次観光振興計画策定のスケジュール案（資料⑦・⑧）について説明。

●委員（H）

3ヶ月間で決めるのはタイトなスケジュールと認識している。スケジュール調整でみんなが集まってということがなかなか難しい。どのレベルの担当者が必要なのか。

●委員長

事務局と相談いただいている。個別に相談しながら対応していただきたい。

●委員（J）

「広域」のイメージ・アイデアについて教えていただきたい。

●事務局

関西圏の周遊を促進できるような移動手段やターゲット層の分析等、またプロモーション等をできればと考えている。今回は堺市から岬町（泉州）までのエリアの周遊をできるような連携を考えている。

●委員（C）

堺以南の7商工会議所での観光振興が根底にあり、それが市内と広域を分ける理由となっている。関空、南海、観光局の方、皆さんのご協力を得て地域全体として盛り上げていきたいというのが根底にある考え方である。

●副委員長

毎年この推進委員会は2回開くのが精一杯だったが、その中でこのスケジュールを事務局としてさばくことが可能なのか。

●事務局

事務局としてはこのスケジュールで参りたい。

●副委員長

広域WGの「広域」をどのエリアで捉えるかをWGで考えさせてもらいたい。9市4町の連携か、万博があるので関西全域という話だと議論の仕方も変わってくる。私はまず泉州と考えている。市内WGと比べて、広域WGはコンサル的なことをしないとイケないと思うが、例えばターゲット分析とか宿泊移動手段の分析をするときに、コロナは前から何回も言っているが、やはりある程度信頼できるデータが欲しい。データを事務局としてどう読んでおられるのかということと、これ以外にどんなデータがあるのか。どの辺りまで準備されているのかというのを教えてもらいたい。

●事務局

データ分析は、本市で取れていなかったデータもあるのでそこが課題であると認識している。次の計画の（説明の）際にデータの取り方等は説明をさせていただく。

③第3次計画策定に向けた方向性の説明・協議

●事務局

第3次観光振興計画策定に向けての方向性として、（仮称）第3次岸和田市観光振興計画目次（案）、各種アンケート調査票（資料⑨・資料⑩）の説明。

●委員長

アンケート調査が先行している経緯について説明。

●副委員長

このアンケートと我々のWGというのは基本的に関係ないという理解でよろしいか。WGでは使いにくい項目。例えば宿泊なら少なくとも宿泊の日数ぐらいは聞いてほしい。

●事務局

これまで基礎的データがなかったことが一つの大きな懸念材料。したがって、アンケートもできればWGでも示し、傾向を踏まえて広域連携を考えながら、どのように広域の定義をしていったらよいか、そういったところに活かしていただきたい。

広域WGではインターネット調査のほうを参考にしていきたい。来訪者と非来訪者に分けてアンケートを取るが、仮説としては非来訪者に岸和田が観光地という認識がない。他方で、口コミ分析では他自治体に比べ評価が高い。岸和田城やだんじり会館を見た方は面白いと感じている。

●委員（G）

岸和田よりも先に行きたいところがあり、優先順を奪われているのではないか。

●事務局

他に行きたいところを優先しているのか、知らないから来ないのかさえ、一定のデータがない状況。泉州一帯を「広域」とするのか、関西にまで広げるのか、実効性のある議論ができるのか、そうしたことも議論いただくためにもデータを取る。

●事務局

副委員長からご指摘いただいた宿泊施設等のアンケートについては、別に事業者ヒアリング等を行う。

●委員（F）

大阪府にはたくさん人が来ているけど、岸和田にはなかなか人が来てくれない。観光資源を活かせてない。観光交流センターができて、ガイドをしているときに食事ができるのはあるが、ちょっと半端な感じがしている。喫茶店や地場産業のものを売っているが、もっと有効にして、集客施設として交流センターを作ったわけですから、本当にお客さんに来ってもらうように、いろいろ考えてもらいたい。

●委員（B）

どの観光施設に留置き調査を行うのか。想定サンプルの回収は可能なのか。

●事務局

留置き調査について、市内 11 ケ所を予定。現在入込客数を調査している岸和田城、だんじり会館、五風荘、観光案内所、観光交流センター、まちづくりの館、四季まつり、愛彩ランド、蜻蛉池公園、浪切ホールの 10 ケ所に加えて、自然資料館。

留置き調査は、様々な自治体で実施している方法である。QR コードを用い、スマートフォン等でも回答が可能。目標は 300 枚を見込んでいるが、難しい場合は、箱の設置場所の確認等の工夫を行いたい。

●委員 (B)

もっと簡単にできるのがたくさんあると思う。バスの乗り場とか。もっとお金をかけずにできることがあると思う。

●事務局

今回の調査項目のような留置き調査は、観光振興計画を作る自治体は大体過去に実施しており、調査をもとに、方向性を検討する必要がある。

アクションプランを作成する中で、追加でやっていくべき調査があったら取り入れていきたい。

●委員(K)

調査について、調査設計や調査目的を示してほしい。WG としてどの調査項目が結びついていけるかが分かりづらい。各委員が結果をもとにして共通の認識を持ちたい。

●事務局

WG の第 1 回が 8 月下旬の終わりで開かれる。その時には、調査結果を速報版だけではなくて、可能であれば少し分析も入れたい。また、WG の検討課題にどう関係するか紐づける形で説明するようにしたい。

●副委員長

基本計画がまず先にあるって WG は推進するものと思うが、その二つの作業上での関係はどうなっているか。

●事務局

広域なら泉州全域を回ってもらって発想、市内なら市内に来た方をどうするかという発想で、議論の視点や言葉が異なる。目線合わせのために WG を分けていると考えている。調査結果がどう検討課題に届くかまで示すので、それをもとに測っていただくことが望ましい。

●委員(C)

日程が詰まっているというだけで、内容はこのように決めましたというのは進め方としておかしい。方向性としても、委員会で議論を重ねられていない。

●事務局

調査が先行したことについてお詫び申し上げます。新たな分析については、委員の皆様のご意見をいただきながら検討させていただきたい。また、方向性として、総合計画である将来ビジョン岸和田に基づいて観光の振興政策についても進めてまいりたいと考えているなかで、この第 3 次については、1 次、2 次計画の結果を検証し、今後の計画策定に臨みたいと考えている。そのために、まずは検証にかかるための調査結果を WG でまず取りまとめ、委員の皆様のご意見を賜りながら、方針や理念を定めていきたい。

●副委員長

第3次計画の(目次)第1部は、第2部にむけての基礎資料提示だと考えているが、このデータで十分なのか疑問。岸和田市が一つの点でなくて、例えば泉佐野市に来て泉佐野市から岸和田に来るというケースもあると思う。事業所のヒアリングは、大阪市内のホテルまでするのか、それとも岸和田の限られたホテルだけにするのか。岸和田のエリアだけでアンケートをしてもあまり意味がないと思うが、どのようにお考えか。

昨年、阪急交通社でアンケートを作っている。泉州のなかで人がどう流動しているかのデータを取ってほしいというのが、前回の一つの結論だったので、そのデータがここに入ってこないといけない。それをしないと判断しているなら、その理由を言っていただきたい。

●事務局

大阪市内のホテルを全て調べることはできない。また、調査した結果、岸和田にどうやって観光客を連れて来られるかを明らかにできないと考えている。

それよりもまずは、岸和田の観光資源に関する基礎データを作る必要があると考えている。

●委員(C)

細かい中身についてはWGで、この場では大きな方針の話をするべきで、今後どういった方針でやるのかを考えていただきたい。

●副委員長

以前から推進委員会が継続している中で、泉州の中でどのように観光客が動いているのかについてデータを取っていただきたいという議論になったのではないか。私は必要だと考えているが、必要がないならこうした理由でデータを取る必要がないとそうおっしゃっていただきたい。

●委員(J)

関空に入ったインバウンド客が一体どこに行っているのかというデータがある。インバウンドの250万人は泉州に滞在している。泉佐野市にはたくさんホテルがあってインバウンドの滞在拠点になっている。泉佐野りんくうエリアに大量に滞在している人をどう引っ張るかということを考えるべき。

関空に到着した初日と5日目がインバウンドの滞在のピークを迎えているが、この地域を主たる目的地にしているのではなくて、到着した日もしくは帰国の前日にこの地域にたくさん泊まっている。特に5日目がピークを迎えているというのは、6日目にフライトで帰国をされる方が5日目に泉佐野エリアに宿泊しているのが事実だと考えられる。

5日目に滞在しているホテルは「やることなくどこか行くところはないですか」とフロントによく聞かれている。フロントは難波に行ってくださいと案内している。

私は泉佐野のホテルとか岸和田のホテルとかいうような議論というのは、そもそも無意味ではないかなと感じている。

次に、関空から入ったインバウンドが岸和田市のどこを訪問しているかというのをポイントで落とし込んでいる。人数でいくと、1万9000人のインバウンドが岸和田に来ている。岸和田駅周辺には4000人、うち4割は中国人、35%は台湾、15%は韓国。

このデータは岸和田市に共有しており、昨年からもこれはお出しをしている。

●事務局

今回やりたい調査の一つが中華圏のオンライントラベルエージェンシーに対して岸和田城、だんじり会館などが、どれくらい魅力があるかである。

時間的にもちようどうまく、帰国前の時間、入国後の出国に移動する時間をうまく使って来ていただける範囲で、先ほど申し上げた日本に入って初めてのお祭り等を体験でき、SNSにおける発信もできるような地域である。

●委員（C）

観光局などのWi-Fiのポイントのデータもかなり有効だと思う。

●委員（I）

アンケートの質問項目について主観的な部分が多いと感じる。観光が都市間競争になっているなかで、泉州で岸和田以外の都市がどんなコンテンツを持っているかも客観的に見ていく視点が大事。我々が持っているWi-Fiデータなども活用いただくと良い。観光局としても、今年は岸和田を重点地域と位置付けているので協力していきたい。観光客が岸和田に行く必然性を探るには客観的なデータ分析が必要で、そのような視点があって初めて岸和田の立ち位置が分かる。

●事務局

泉州域内をどう移動しているかは、大阪観光局様のWi-Fiデータを頂戴して分析にも活かしていきたい。人流については、南海電鉄様にも乗降客数に関するデータ等のご協力も伺うかもしれない。

●委員（G）

どういうまちにしていきたいとか、どういう風に来てもらいたいかを、考えるためのツールとしてデータがある。その後定量的な目標設定が必要だと思う。定量的なものの目標設定が仮にあるとすると、現状とのギャップをどのように考えるかで、各論に入っていくと思う。こういった流れがないと、個別具体の各論から入ってしまう。データはデータで観光産業というのが人の動きを可視化するのが基本だと思う。まちの姿やまちのブランドといった大局を見た方が良い。

●副委員長

事務局も担当者が変わり、コンサルの会社も変わり、委員の方も変わっているので、これまでの流れというのを知っている人と知らない人とでだいぶ前提条件が違う。

インバウンドの扱いというのをこれまで通り少しプラスアルファぐらいの位置づけで議論するのか、それとも結構中心に置くのかによっても違う。

7割ぐらいは泉州の話になるという理解をしていたが、その辺りはっきりしておかないと、今後WGで齟齬が出る。

●事務局

観光資源というものを掘り下げて磨き上げていこう、というのが今の方針。府外なり広域から集客したいという思いはその通りだが、まずは来訪する目的というものを磨き上げ、深掘りして、PRを展開、というのが今後の観光の方針。

インバウンド向け100%ということは本市の特性にあまりなじまないと思う。

●委員（G）

観光資源って日本にはいないと個人的には考えている。日本の日常の景色、日常の街並み、日常の人の生活、そのものが地域資源で、地域資源はそのまま観光資源。

●委員長

議論に連続性を持たせるために、過去の推進委員会や観光振興計画策定の経緯を事務局でまとめていただきたい。そしてWGで説明をいただきたい。WGでの議論をもとにして、大きな視点から、推進委員会で議論を行うという方向で進めたい。

●副委員長

委員会に出てこられる方とWGに出てこられる方と同じ情報を持たないといけない。もし人が違うのだったら意思疎通してもらおう。

データについて、過去や日頃収集しているデータをどのように組み合わせていくのかを考えていただきたい。

●委員（J）

先ほど示したデータは、2019年のコロナ以前のデータであり、2023年度のデータも取得予定のため、後日提供させていただく。

●委員長

先ほど申し上げた方向性で進めていきたい。事務局にお返しする。

（3）その他

●事務局

第2回の委員会の日程については9月上旬を予定、改めて場所・日程の調整させていただく。

3 閉 会